

特集：朝ごぱん市から見えるまちの景色

ー 運営ボランティア ー

■参加するきっかけ

最初は姫路の商店街イベントで八木さんと出会い、そこから神田さんにつながりました。神田さんが朝ごぱん市に参加し、その流れで僕も翌月から関わるようになったんです。商店街活性化は職務でもあったので、学びになると思い参加しました。

■どんな変化を感じたか

若い人が来るようになってから、場の雰囲気が一気に明るくなりました。それまでは“おっちゃん中心”の空気でしたが、学生が入ることで出店者も若返ったように感じます。大学のフィールドワークで来た学生が翌年にはゼミ単位で関わり、さらに大学院へ進んだ学生が別の教授を通じてつながりを広げるなど、自然な循環が生まれています。

■若者の参加が増えた理由

朝ごぱん市が「やりたいことを試せる場所」だと認識され始めたからだと思います。学生が企画したいと言えば、僕らはできる限りサポートする。トライ＆エラーを繰り返すことで卒論につながったり、地域活動に発展したりしています。最近では高校の商業科や企業のPR、図書館プロジェクトなど、幅広い主体がこの場を“フィールド”として使うようになりました。

■まちを見る視点の変化

商店街の本音や課題が見えるようになりました。朝ごぱん市がなければ気づけなかったことばかりです。行政のワークショップや商店街の方向性を考える場でも、この経験が役立っています。

■次の世代に望むこと

今の若いメンバーは自主性を持って動いてくれています。この流れが続いてほしい。朝ごぱん市を通じて人とつながり、自分の地域を“自分ごと”として考えるきっかけにしてほしいです。いずれ自分も年をとる。だからこそ、次の世代がまちを良くする力を持ってくれたら嬉しいですね。